

## 平成 30 年秋期 情報セキュリティマネジメント試験 合格発表 アイテックコメント

(株) アイテック IT 人材教育研究部 2018,11,21, 11,22 修正

10 月 21 日 (日) に行われた平成 30 年秋期の情報処理技術者試験について、今回 6 回目の実施となった情報セキュリティマネジメント試験 (以下 SG 試験) の合格発表がありました。試験に関する統計データをもとに、全体の得点分布と合格率関連の情報をお知らせします。

### ■情報セキュリティマネジメント試験(SG)

[平成 30 年秋期の情報セキュリティマネジメント試験 統計情報]

応募者	19,692 人
受験者	15,579 人
合格者	7,220 人
合格率	46.3%

試験結果は合格率が 46.3% で、初回から 88.0%→70.3%→66.4%→50.4%→53.7% と下降傾向が続く中で前回上昇しましたが、今回は再度下がり、最も低い合格率となりました。本来受験対象としている一般企業の受験者が増えてきた中で、午前試験で難しい過去問題が多かったことなどが影響したと思われます。

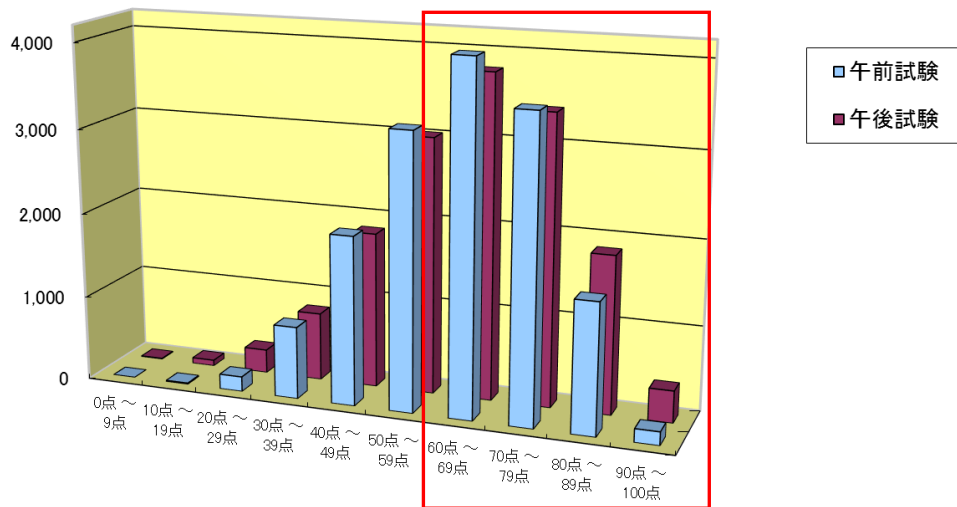
問題の難易度について、統計データから計算した午前試験の平均点の推測値は 62.3 点 (初回 81.1 点→70.4 点→70.6 点→61.9 点→68.7 点) で前回よりかなり下がりました。一方、午後試験の平均点の推測値は 63.0 点 (初回 81.7 点→72.8 点→68.2 点→66.1 点→62.3 点) で、こちらはほぼ前回と同じといえ、午後試験は前回と同じ難易度だったことを示しています。

試験センターから発表された SG 試験の得点分布をグラフと合わせて示すと、次のようになります。

[平成 30 年秋期 統計情報(情報セキュリティマネジメント 得点分布)]

得点	午前試験	午後試験
0 点 ~ 9 点	0	9
10 点 ~ 19 点	14	68
20 点 ~ 29 点	176	279
30 点 ~ 39 点	854	806
40 点 ~ 49 点	1,990	1,838
50 点 ~ 59 点	3,233	3,015
60 点 ~ 69 点	4,077	3,794
70 点 ~ 79 点	3,544	3,396
80 点 ~ 89 点	1,533	1,856
90 点 ~ 100 点	158	377
計	15,579	15,438
午前と午後の差		(141)
<b>合格者数</b>	<b>7,220</b>	合格者数との差
午前 60 点以上合計	9,312	2,092
午後 60 点以上合計	9,423	2,203

平成30年秋 統計情報（情報セキュリティマネジメント試験 得点分布）



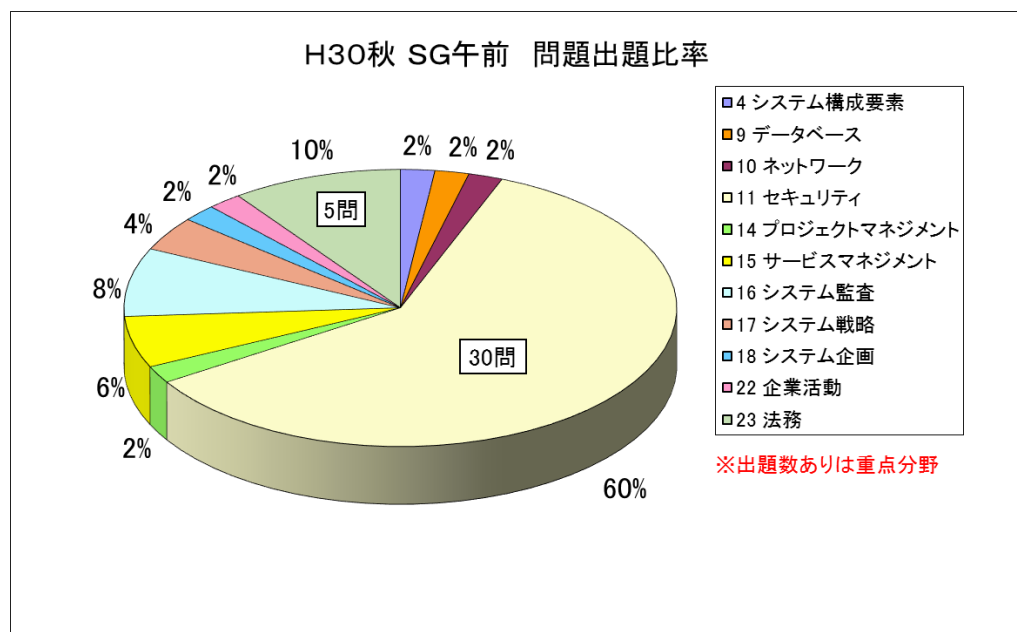
今回の結果を分析すると、午前試験で合格基準点の60点以上の方は9,312人で、受験者の59.8%になります。前回は75.8%だったので大きく減少しており、今回の午前試験はやや難しかったといえます。また、午後試験が基準の60点以上だった人は9,423人で受験者の61.0%（前回59.8%）にあたり、午後試験はほぼ同じ難易度だったといえます。

今回の試験の傾向や特徴を少し細かい内容でまとめると、次のようになります。

【午前問題】

- ・今回の出題数としては、SG試験の重点分野のテクノロジー（セキュリティ）が30問、ストラテジ（法務）が5問の計35問（7割）ありました。その他の出題分野としてはマネジメント系が8問（前回7問）、テクノロジー系が3問（前回4問、システム構成要素、データベース、ネットワーク）、ストラテジ4問（前回3問）でした。
- ・新試験6回目の実施ですが、過去問題は前回とほぼ同じで全体の約5割ありました。出題された過去問題としては基本情報技術者試験が5問（前回15問）とかなり減り、応用情報技術者試験の過去問が9問（前回1問）と増えています。基本情報の過去問が減り、応用情報の過去問が増えたことが特徴的で、今回の予想得点前回よりも下降した理由といえます。
- ・他の試験でこれまでに不出題されていない新傾向といえる問題は10問ありました。
  - 問3 JIS Q 27017における“管理策及び実施の手引”の適用
  - 問4 情報セキュリティ対策への取込みを中小企業が自己宣言するもの
  - 問8 情報セキュリティガバナンスとITガバナンスの範囲
  - 問11 言い訳をさせないことが目的の一つになっている対策
  - 問15 マルウェア Wanna Cryptor (WannaCry)
  - 問17 セキュアブートの説明
  - 問20 無線LANアクセスポイント設置におけるセキュリティ対策と効果
  - 問23 従量課金制クラウドサービスにおけるEDoS攻撃の説明
  - 問39 公開鍵証明書取得日、電子署名生成日及び検証日の組合せ
  - 問47 データサイエンティストの主要な役割

## 平成 30 年秋期の情報セキュリティマネジメント試験



今回出題されたセキュリティ分野の問題の中で、攻撃手法関連の問題が 5 問ありましたが、最近では 2~3 問の出題数でしたので増えています。また、暗号化と認証の問題は 5 問で前回の 8 問から減りました。

今回のほかの特徴として、文章や用語問題で JIS の規格番号を明記して出題されている問題が前回と同じで 7 問あり出題数が多いといえます。JIS 規格の 27000 (2 問)、27001 (3 問) のほか、JIS Q 27014 (情報セキュリティガバナンス) と JIS Q 27017 (クラウドサービスのための情報セキュリティ管理策の実践の規範) が 1 問ずつ初めて出題されています。規格類をすべて理解するのは大変ですが、一度は読んでおきポイントを理解しておく必要があります。また、IPA が発表している「中小企業の情報セキュリティガイドライン」から 3 問出題があり、「内部不正防止ガイドライン」と併せて実務で大変参考になる資料ですので、読んでおくことをお勧めします。

これら、規格やガイドラインの問題内容は基礎知識があれば解答を絞り込めるものもありますが、全体に難しい問題が多いと感じられました。

### 〔午後問題〕

今回の午後問題の出題テーマは次のとおりでした。

問	テーマ	内容	難易度
1	インターネットを利用した振込業務の情報セキュリティリスク	インターネットバンキングのセキュリティ、振込手続、リスクと対策、PC のマルウェア感染、偽メール	普通
2	リスク対応策の検討	クレジットカード情報のセキュリティ対策、委員会開催、セキュリティ点検、指摘事項、ID の棚卸、高リスクソフト、データバックアップのリスクと対策	普通
3	標的型メール攻撃への対応訓練	営業部員の会員情報閲覧、不審メール対応、標的型メール攻撃対策、標的型攻撃訓練の計画、訓練サービス、セキュリティ対策の改善、課題、解決策と実施案	やや難

前回の午後試験問題はボリュームが減りましたが、今回は問 1 が 14 ページ(前回 10 ページ)、

問 2 が 10 ページ (前回 9 ページ), 問 3 が 11 ページ (前回 12 ページ) と問 1 の分量が多かったです。3 問すべてに解答する必要があるので, 問題文を根気よく丁寧に読んでいく読解力を付ける演習が重要です。問題ごとに解答するマーク数が異なりますが, 各問 9~11 個 (前回 9~10 個) の解答マーク数でした。選択肢は記号の組合せなど紛らわしいものが多く, 選択する際には十分注意が必要です。

次回以降も同じ程度の問題ボリュームと思われませんが, 1 問に 30 分かかれることを意識して, 長い説明文をあせらずに読み, 内容をしっかり理解するようにしてください。問題集などでの演習で, 分からないと途中であきらめて解答を見ってしまう人がいますが, 途中でやめることなく, 「解答時間 30 分と決めて行う」ことを続け, 最後の時間まで考えて, 解答を見つける努力を続けていくと, 演習した問題の数に比例して実践力を付けることができます。

### 〔次回試験に向けて〕

今回, SG 試験の合格率が下がりました。IT を利活用する立場で業務に従事する人のための試験ということを考えると出題内容は結構難しいといえますが, 今後の試験も今回と同レベルと考えて対策する必要があります。業務で日常行われているセキュリティ対策関連の基礎知識を, 日頃から少しずつ理解していくようにしましょう。

次回の試験対策として過去の試験の出題内容を理解し, IPA で公表されているセキュリティ関連のガイドラインや事例を理解しておきましょう。また, JIS 規格については, 下記のサイトで画面上だけですが読むことができるので, JIS Q 27000, JIS Q 27001, JIS Q 27002 の用語の定義部分だけでも読んでおくことをお勧めします。

<http://www.jisc.go.jp/app/jis/general/GnrJISSearch.html>

午後試験問題がここのところ続けて難しく解答しづらい問題なので, 合格点の 60 点を確実にクリアできるよう問題解法力を付ける必要があります。このため, 知識がついてきたら事例への適用力を高めて, 午後試験の対策をしっかりと行ってください。アイテックの参考書, 問題集の活用をお勧めします。長文問題への対応力をしっかり身につけて受験してください。